Tokushima University Archaeological Heritage Management Office Newsletter

# 徳島大学埋蔵文化財調査室ニュースレター

No.1
2014 Summer

## 徳大構内遺跡を掘る！

徳島大学は、遺跡の上に立地しています。文化財保護法によって、建物などの建設に際して、周知の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）を掘削する場合、発掘調査を行うことが義務づけられています。こうした理由で、1992 年に徳島大学では埋蔵文化財調査室が設置されました。以降、大学構内の再開発に伴い、継続的に遺跡の発掘調査を実施してきました。その結果、学術的価値の高い文化財が数多く発見され、考古学・日本史などの学界にも大きく貢献してきました。また近年、学内外でこれらの出土文化財を活かした教育普及活動にも力を入れています。本号では、こうした活動の一環として、本調査室がこれまでに行った発掘調査の成果の一部をご紹介します。

**埋蔵文化財調査室の外観**
蔵本キャンパス看護師宿舎１F 東側に所在

徳島大学には三つのキャンパスがあります。これまでに新蔵キャンパス（事務局など）、常三島キャンパス（総合科学部・工学部など）では徳島藩の武家屋敷跡が、蔵本キャンパス（医学部・薬学部・歯学部・医療技術短期大学部・大学病院など）では弥生時代前期から江戸時代までの複合遺跡が確認されています。今日、これらの遺跡はそれぞれ新蔵遺跡、常三島遺跡、庄・蔵本遺跡と呼ばれています。（端野晋平）

地形図：電子国土 Web より引用・改変

## 新蔵遺跡 －上級武家屋敷跡－

蜂須賀家政の阿波国入部に伴い徳島藩は、城郭の所在する城山を拠点として、その東側一帯に６つの島（徳島・寺島・福島・住吉島・常三島・出来島）からなる城下町を建設しました。そのうち、徳島に形成された遺跡の一つが新蔵遺跡です。徳島は、城郭・御殿の西側に接し、家老・中老邸宅の集中する地区でした。2004 年の地域・国際交流プラザ地点の発掘調査では、かねてより絵図や文字記録、周辺の発掘調査成果によって予想された上級武家屋敷跡が確認されました。なかでも、19 世紀の片山家屋敷地内で検出された池状遺構からは、陶磁器・土師器・瓦・金属製品・土製品・石製品・木製品などの遺物が多量に出土しており、これらから当時の上級武士たちの豊かな暮らしぶりを知ることができます。

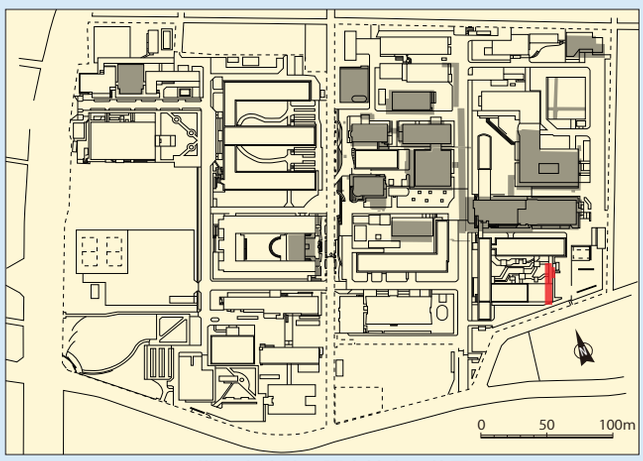
新蔵遺跡（地域・国際交流プラザ地点）の位置

池状遺構（地域・国際交流プラザ地点）

陶磁器（地域・国際交流プラザ地点）

## 常三島遺跡 －中・下級級武家屋敷跡－

新蔵遺跡と同じく、吉野川河口付近のデルタ地帯を江戸時代になって埋め立てて造られた城下町の武家屋敷地区の一つ、常三島に形成されたのが常三島遺跡です。常三島キャンパスは、この遺跡の中心部に位置しています。ここでの発掘調査は 1992 年の工学部実習棟地点に始まり、これまで合計 20 次にわたって実施され、絵図や文字記録に残された中・下級武家屋敷跡が確認されています。なかでも工学部電気電子棟地点では、徳島藩水軍の拠点「安宅」の素掘り舟入状遺構（17 世紀前半～中頃）と、私的な水運に利用されたと思われる石組み舟入状遺構（17 世紀後半～ 18 世紀）が発見されました。



常三島遺跡の調査地点の位置

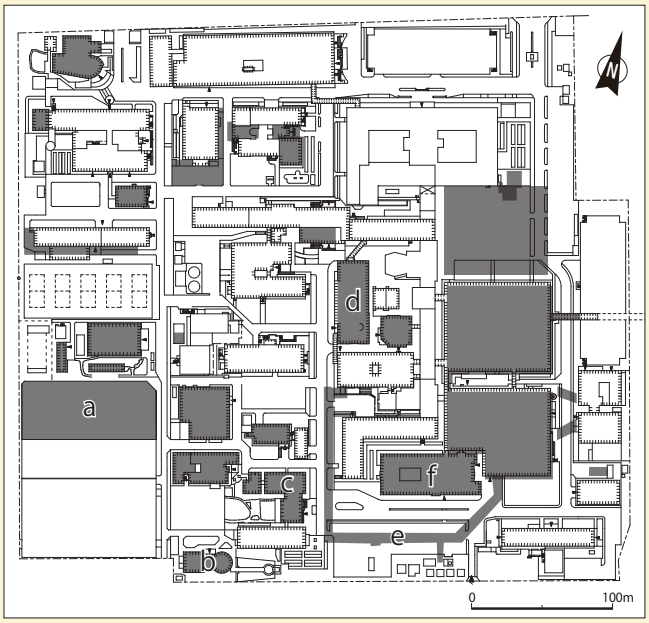
赤色は工学部電気電子棟地点、グレーはそのほかの調査地点

素掘り舟入状遺構（工学部電気電子棟地点）

石組み舟入状遺構（工学部電気電子棟地点）

# 庄・蔵本遺跡 ー初期の農耕集落跡ー

庄・蔵本遺跡は、阿波徳島のランドマーク、眉山の北側山麓に広がる遺跡です。遺跡名としては一般に「庄遺跡」として知られていますが、遺跡の中心部に蔵本キャンパスがあり、徳島大学では構内にあたる地点を「庄・蔵本遺跡」と呼んでいます。蔵本キャンパスでは、1982 年に体育館器具庫地点の発掘調査を嚆矢とし、これまで 29 次にわたる発掘調査が実施されています。その結果、縄文時代後期から近代にいたるまでの幅広い時代に属する、数多くの遺構や遺物が発見されています。その中でも、弥生時代前期のそれは極めて豊富で、初期の農耕集落遺跡として、学界で注目されています。弥生時代の始まりには、２重の濠が円形に巡り、その周辺に墓地や畑・水田が広がっていたようです。ここからは土器・石器・木器などに加え、炭化種子も出土しており、弥生時代像の復元に貢献しています。

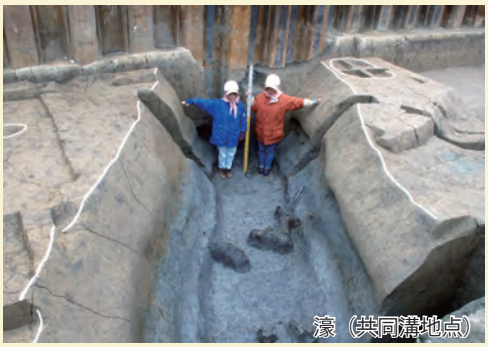



**庄・蔵本遺跡の調査地点の位置**

グレーは調査地点　a. 立体駐車場　b. 青藍会館　c. 医療技術短期大学　d. 藤井節郎記念医科学センター　e. 共同溝　f. 西病棟

畑（西病棟地点）

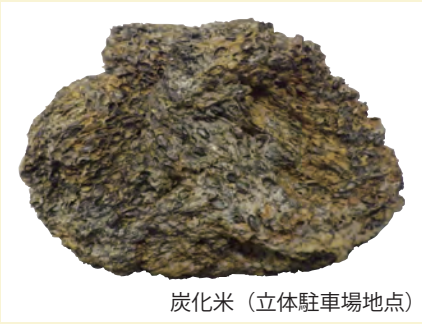
水田（藤井節郎記念医科学センター地点）


濠（共同溝地点）

弥生土器（立会病棟南側溝地点）

石棺墓（青藍会館地点）

石庖丁（西病棟地点）


炭化米（立体駐車場地点）

腰掛け（医療技術短期大学地点）

## 発掘だより

### 常三島遺跡第 19 次調査 ＜地域連携プラザ地点＞

調査した場所は、常三島キャンパス西側の総合科学部エリアの北西部に位置します。調査は、2013 年6月6日から7月1日まで実施しました。調査面積は 458 ㎡です。調査の結果、調査区の北側で、東西方向に延びる溝が1条確認されました。この溝は、遺跡から出土した陶磁器の年代からみて、江戸時代にあたる 17 世紀後半以降に掘られ、機能していたものと考えられます。『御山下島分絵図』（安政年間、個人蔵）などの実測分間地図からみて、この溝は二つの武家屋敷地（安政年間は北側に杉浦家、南側に寺沢家）を隔てる境溝と推定されます。今後、こうした成果を活かしつつ、常三島における武家屋敷の全体像の解明に向けてアプローチしていきたく思います。

武家屋敷境溝の調査風景

### 常三島遺跡第 20 次調査 ＜フロンティア研究センター地点＞

江戸時代の石組み遺構（南西から）

調査した場所は、常三島キャンパス東側の工学部エリアの北西部に位置します。調査は、2013 年6月 27 日から9月 11 月まで実施しました。調査面積は 756 ㎡です。江戸時代の絵図によれば、本調査地は江戸時代を通じて、長谷川家の屋敷地であったことが知られます。調査の結果、江戸時代の土坑・ピット約 400 基、溝2条、石組み遺構1基などが確認されました。特に石組み遺構は、生活用水を得るための水場へと降りる階段、足場としての用途が推定され、屋敷地内での空間利用の一端が明らかになった点は注目されます。今後、遺構・遺物の整理作業を行うことによって、屋敷地全体の空間利用についても鮮明になることが期待されます。

## 編集後記

今回は第1号ということで、徳島大学構内遺跡に関する調査成果の概要を紹介しました。紙数の都合上、ごく一部にとどまりましたが、これまでの発掘調査で得られた成果はまだまだこんなものではありません。今後、詳しく紹介していきたく思いますので、どうか本誌にご注目ください。（端野）

編集発行：徳島大学埋蔵文化財調査室　2014 年 8 月 31 日　発行

〒770－8503　徳島県徳島市蔵本町 2－50－1　TEL・FAX　088-633-7236
ホームページ　http://mai-bun.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/